

第2章 特別史跡大坂城跡をとりまく環境

1. 自然的環境

(1) 位置と地形

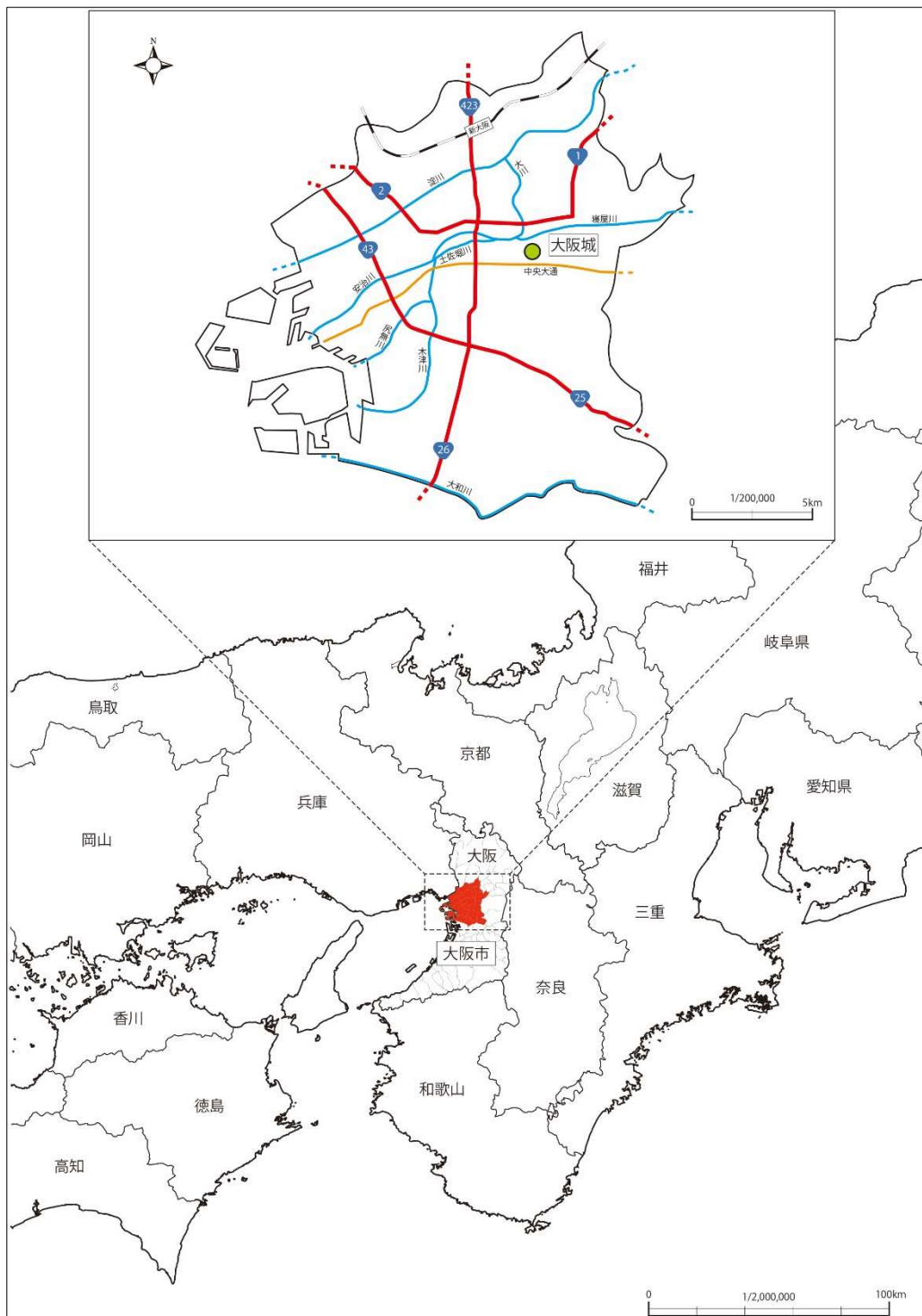


図4 大阪市位置図

大阪は南の丘陵地帯から北へ長くのびる上町台地とその東西に発達した沖積低地から成り、大阪城は上町台地の北端に位置する。台地の東西幅は約 2,000m、最も高いのは大阪城桜門土橋前付近で標高 25m 弱、天王寺付近で約 15m、住吉で約 10m と、南へ行くにしたがい徐々に低くなる。上町台地は大阪城の北側で急激に低くなり、そこで旧淀川本流の大川が旧大和川水系の寝屋川と合流して西流し、堂島川、土佐堀川、安治川、木津川、尻無川となって流れ大阪湾に注ぐ。

台地の西側には、標高 2～5m の難波砂堆と天満砂堆が伸び、近世にはこの低地に人工の堀川が縦横に開削されて市街地が整備され、現在に至る大阪の町割りの基礎をなした。堀川は現在東横堀川と道頓堀川を残すのみで、そのほかのほとんどは第二次世界大戦後の高度経済成長期に埋め立てられ、道路などに姿を変えている。

(2) 景観

上町台地北端に築かれた大坂城は、視界を遮るものが少なかった頃は、石垣を巡らせた曲輪の中に立つ櫓や塀、ひときわ高く聳え建つ天守など、周囲からその威容が仰ぎ見られる存在であった。大阪城周辺地域では、高層建築群による洗練された街並みが見られる一方、低層建築物の多いところや付近の街路においては、大阪城公園の緑を延伸したようなうるおいある街並みが見られ、歴史資産と調和した豊かな都市景観を形成している。

大阪城周辺地区は平成 10 年（1998）に国土交通省が選定する「都市景観 100 選」に選ばれている。また、令和 5 年

（2023）3 月には、景観法に基づき、大阪城天守閣が大阪市の景観重要建造物の第 1 号に指定された。

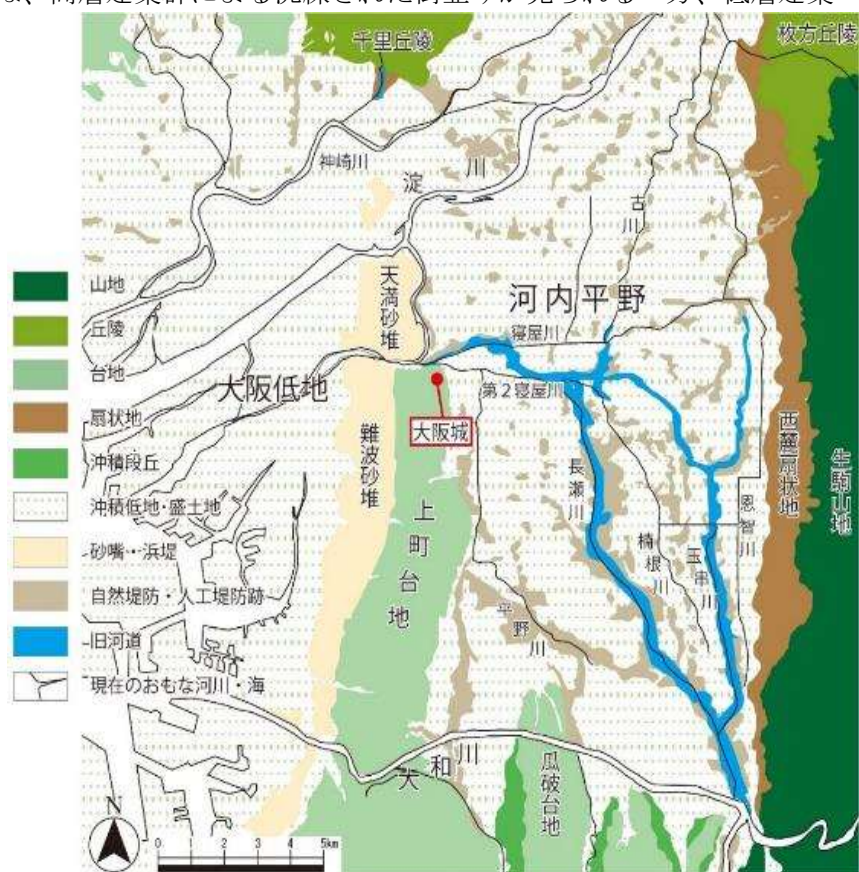


図5 大阪平野中央部の地形分類図（建設省国土地理院 1965 を基に作成）

2. 社会的環境

(1) 交通・アクセス

大阪城は大阪市のほぼ中心に位置している。大阪の中心市街地は、大阪城の西側一帯に形成された近世の城下町を基に発達しており、整然とした碁盤目状の街区を成す。交通網も同様に、東西南北に道路及び鉄道網が整備されている。

鉄道利用による大阪城公園へのアクセスについては、おおむね公園の四隅方向にある各駅から訪れることができる。阪神高速道路13号東大阪線の出入口が南に隣接していることから、自動車による広域アクセスも良好である。

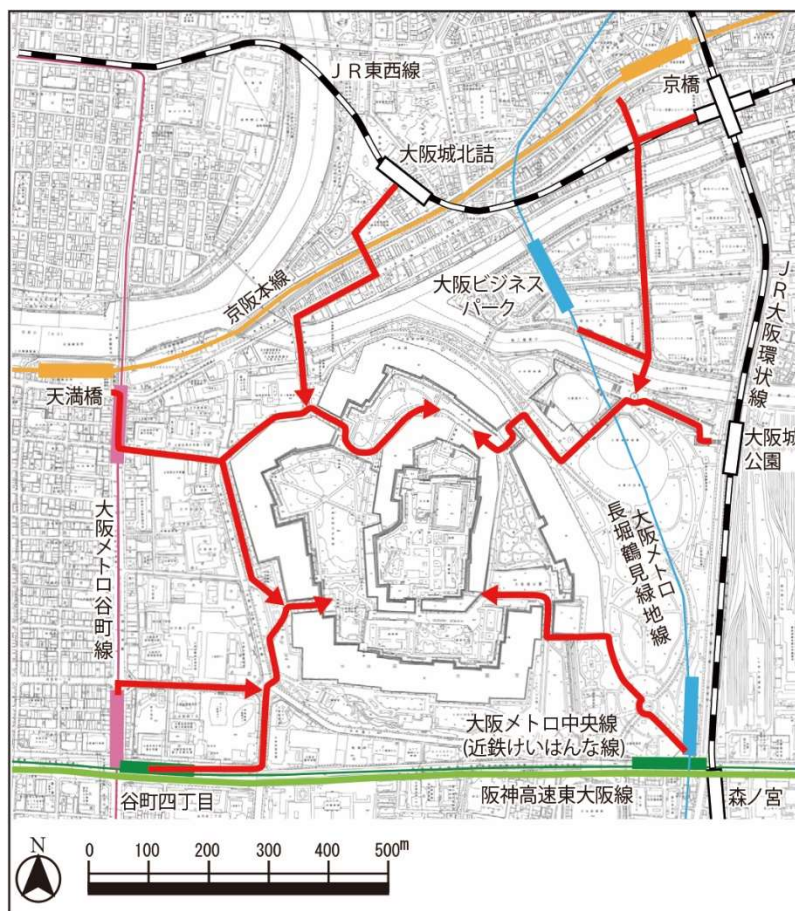


図6 大阪城アクセス図

【大阪メトロ】	【谷町線】	谷町四丁目駅 1-B 番出口、天満橋駅 3 番出口
	【中央線】	谷町四丁目駅 9 番出口、森ノ宮駅 1 番出口、3-B 番出口
	【長堀鶴見緑地線】	森ノ宮駅 3-B 出口
		大阪ビジネスパーク駅 1 番出口
【JR】	【大阪環状線】	森ノ宮駅、大阪城公園駅
	【東西線】	大阪城北詰駅
【京阪電気鉄道】		天満橋駅
【大阪シティバス】	【62 系統】	大阪城大手前、馬場町
【水上バス】		大阪城港
【自動車】		神戸方面から：阪神高速 13 号東大阪線 法円坂出口
		東大阪方面から：阪神高速 13 号東大阪線 森之宮出口

(2) 土地利用

特別史跡大坂城跡を含む一帯は大阪城公園となっている。都市計画決定公園面積は1,069,000 m²、そのうち、特別史跡指定地は約742,500 m²である。特別史跡の敷地のうち、国有地は667,829 m²、市有地は64,093 m²、社寺有地（豊国神社）は10,578 m²である。

国有地は大阪城公園と水道施設が国から大阪市へ無償貸与されている。また、13棟の重要文化財及びタイムカプセルについては、文部科学省所管となっており、大阪市が管理を行っている。大阪城天守閣・旧第四師団司令部庁舎については、土地は国有地で、建物は市所有である。

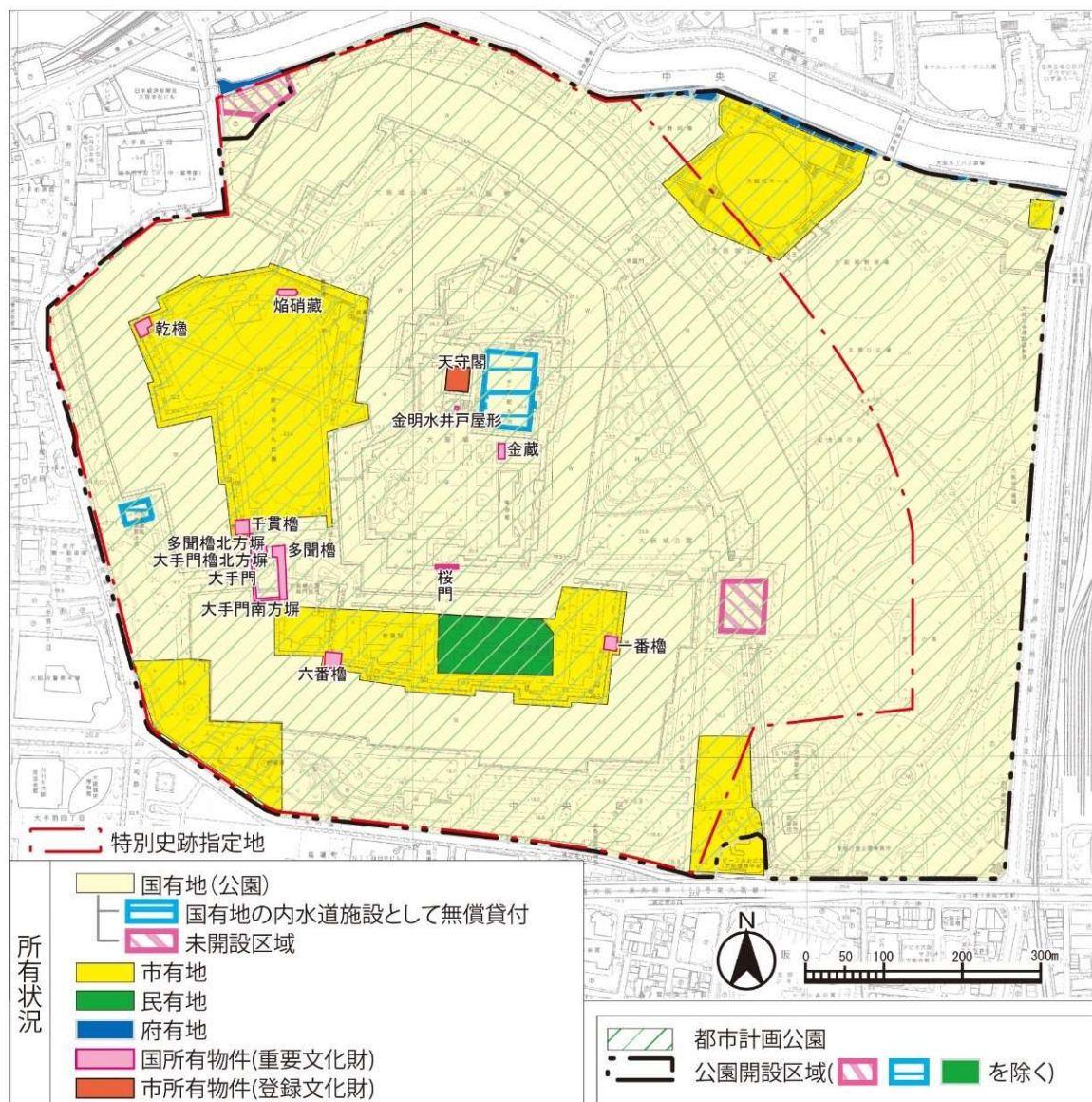


図7 公園用地と所有等状況図

(3) 法規制

文化財保護法による特別史跡指定、及び13棟の城郭建造物の重要文化財指定がある。また城跡のほとんどが国有地であるため、国有財産法の規制を受けることをはじめ、都市計画法や大阪市都市景観条例など様々な法令に関わっている。これら主なものをまとめたのが下表である。

表4 大阪城にかかる主な法規制状況

主な関連法令	規制区域	許認可・届出 等	対象地
文化財保護法	特別史跡：大坂城跡 重要文化財：大阪城	現状変更、保存に影響を及ぼす行為の許可	特別史跡指定地全域 重要文化財指定物件
	登録有形文化財 ：大阪城天守閣	現状変更行為の届出（通常望見できる範囲の1/4以下、内装の改修は除く）	大阪城天守閣
	埋蔵文化財包蔵地 ：特別史跡指定地を除く 大阪城公園域	調査及び土木工事等のための発掘調査を行う場合は事前の届出	特別史跡指定地を除く大阪城公園域
都市公園法	都市公園（歴史公園） ：大阪城公園	認可基準：公園施設の種類の、建ぺい率、運動施設面積等 公園管理以外の公園施設の設置・管理、占用の許可	特別史跡指定地含む大阪城公園全域
国有財産法	国有地	（無償貸付地の管理、管理委託地の管理の費用の負担）	国有地
都市計画法	市街化区域 用途地域：第2種住居地域 （建ぺい率8/10、容積率20/10）	1000㎡以上の開発行為の許可 用途制限 等	特別史跡指定地含む大阪城公園全域
大阪市風致地区内における建築等の規制に関する条例	大川風致地区	建築物・工作物の新增・改築及び移転、土地の形質の変更、木竹の伐採、土石等の堆積、建築物の意匠・色彩の変更等の行為の許可（公園管理者、史跡等文化財に関わる行為は通知）	特別史跡指定地含む大阪城公園全域
大阪市都市景観条例	大阪市	高さ10m以上（敷地面積2,000㎡以上）、地上6階以上（延べ面積5,000㎡超）の建築物の新・増・改築、移転、外観1/2超の変更等の届出	特別史跡指定地含む大阪城公園（大阪市域）
大阪市屋外広告物条例	大阪市	地方公共団体等が公共的目的をもって設置する場合は事前の届出	特別史跡指定地含む大阪城公園（大阪市域）
河川法	河川区域 河川保全区域	工作物の設置、土地の形状変更（河川区域）工作物の新改築、土地の形状変更等の行為の許可	河川区域：寝屋川及び第二寝屋川河川部（堤防含む） 河川保全区域：堤内地側9m
景観法	大阪城		

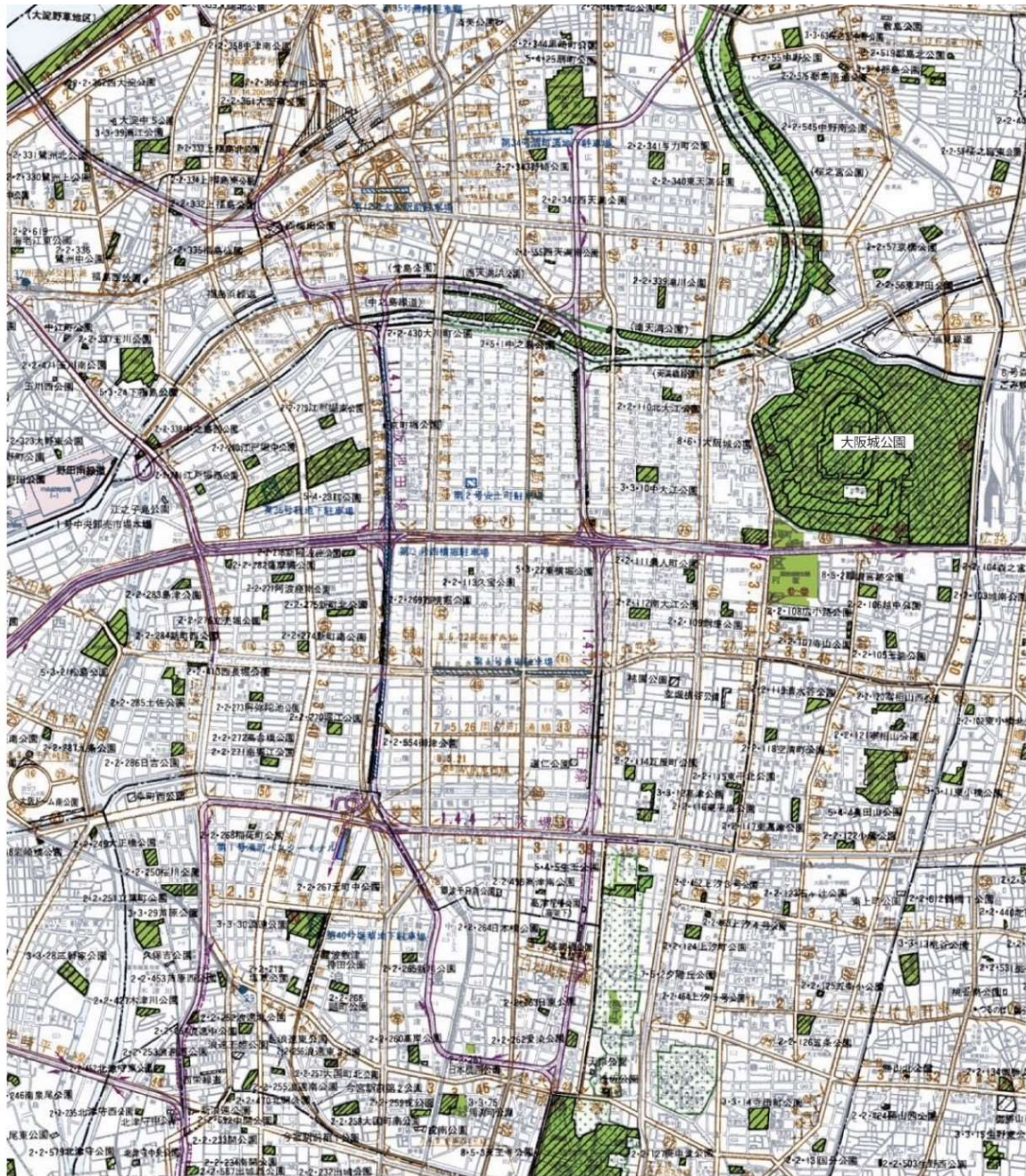


図8 都市計画施設及び風致地区等分布状況図

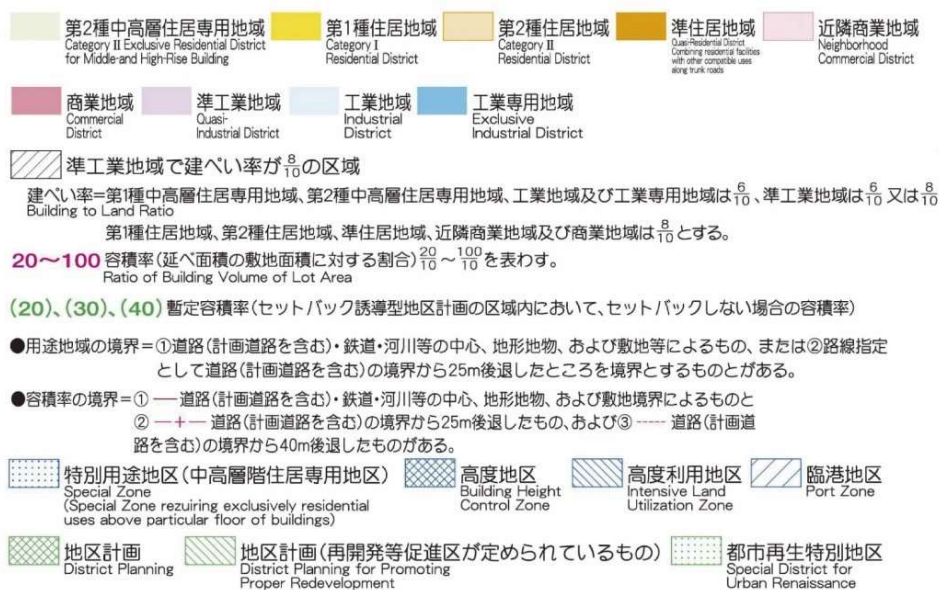
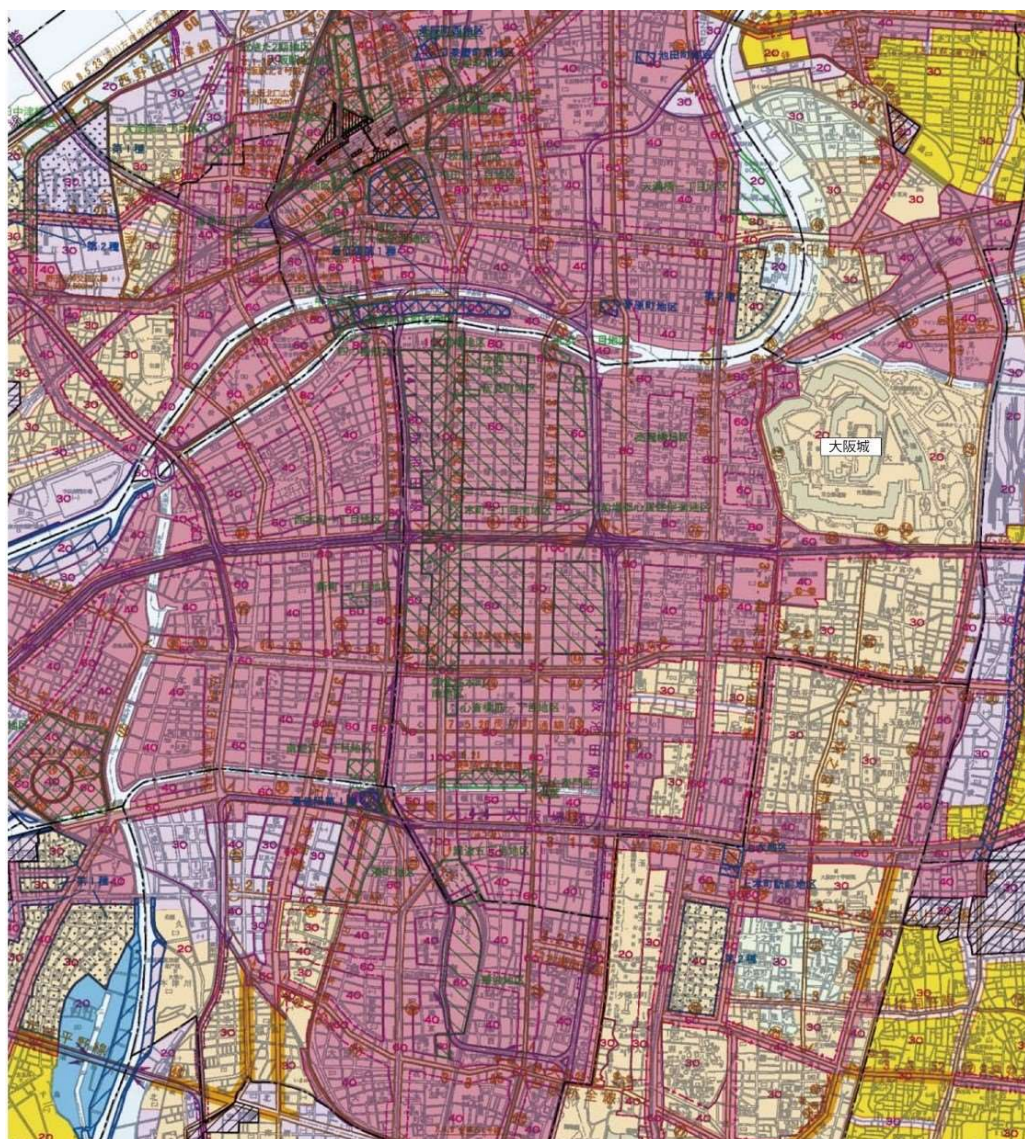


図9 用途地域等の状況図

3. 歴史的環境

大阪は瀬戸内海の東端に位置する水・陸交通の結節点で、上町台地の縁辺には、古代から港が開かれた。難波津は、上町台地の北辺、難波砂堆に築かれた港で、当時の王権に関わる外港として、遣隋使や遣唐使、外国使節などの発着点となった。

また、台地上には飛鳥時代・奈良時代の二時期の宮殿跡が発見され、前者が、大化元年（645）の乙巳の変ののち、孝徳天皇が遷都した前期難波宮（難波長柄豊碇宮）、後者が、奈良時代に聖武天皇によって築かれた後期難波宮であると考えられている。その後、延暦3年（784）、長岡京遷都に伴い、難波宮は廃都となったが、依然としてこの地は交通の要衝であった。

中世には、旧淀川河口に渡辺津と呼ばれる港ができ、源氏の系譜をひく渡辺党がここを本拠として活躍した。渡辺津は平安時代後期以降、熊野や高野山を訪れる参詣者などにぎわったほか、鎌倉時代には、源平の争乱で焼失した東大寺復興のために、重源が渡辺別所を築いて勧進を行うなどした。

明応5年（1496）に上町台地北端に蓮如（浄土真宗本願寺派第八世）が築いた坊舎は、天文元年（1532）に山科本願寺が焼失し、証如（同第十世）が本山を移したことにより本願寺となった。大坂本願寺の周囲には寺内町が形成され、生業を保護する様々な特権が与えられて人々が多く集まり発展した。その後本願寺は、天下統一をめざす織田信長

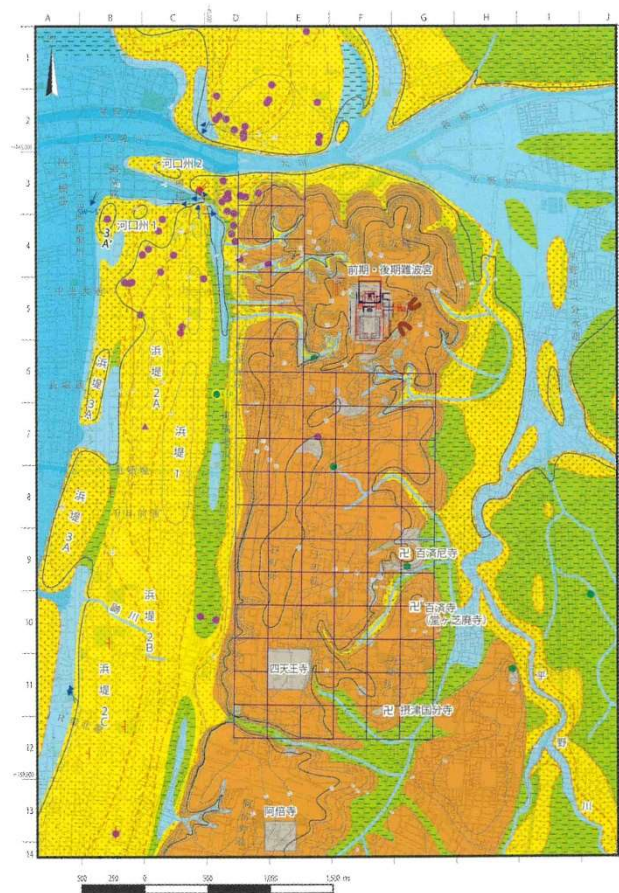


図10 古代前期古地理図（飛鳥・奈良時代）
（『大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究』より）

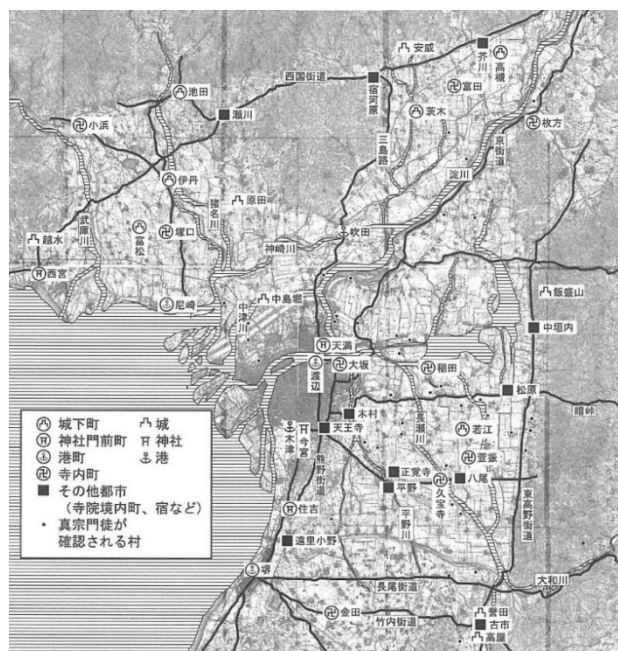


図11 戦国時代大阪平野想定復元図
（仁木宏 2006 より引用）

と足かけ 11 年にわたって争い、天正 8 年（1580）和睦するも、教如（真宗大谷派の始祖）が本願寺を退去した際に焼失した。

信長の死後その後継者に名乗りをあげた豊臣秀吉は、摂津を所領とし、天正 11 年（1583）、大坂本願寺の跡地に大坂城の築城を開始した。それと同時に城下町の開発を行っている。城の南方よび北方の天満には寺院が集中する寺町を設け、慶長 3 年（1598）の町中屋敷替えでは、惣構の内側の町人を船場に移動させて新たな町割りをを行い、この時の碁盤目状の街区は現在に繋がる町割りの原型となった。

豊臣氏は慶長 5 年（1600）の関ヶ原の戦いのあと政治の実権を徳川氏に奪われ、慶長 19・20 年（1614・1615）の大坂冬・夏の陣で敗れて滅亡し大坂城は落城した。

その後大坂は徳川幕府の直轄領となり大坂城は再建され、西国支配の拠点となった。徳川大坂城は幕府が威信をかけて築いた近世城郭の到達点といえるものである。市街地の整備も進み、

船場には新たな堀が開削され、水運を利用して様々な物資が行き交った。中之島周辺には西国を中心とする諸藩が蔵屋敷を構え、年貢米や地元の産物を運び込んで売買した。大坂は、天下の台所と称されるほど商業の町として発展し、闊達な町人文化も花開いた。

明治維新による幕府の崩壊は、大坂の経済に打撃を与えた。しかし明治初年には大阪城の東側一帯にのちに大阪砲兵工廠となる造兵司が設けられ、大阪城周辺は明治政府の軍用地となり、天満には造幣寮も設置され、これら近代的な工業の技術や知識の導入が、大阪における工業発

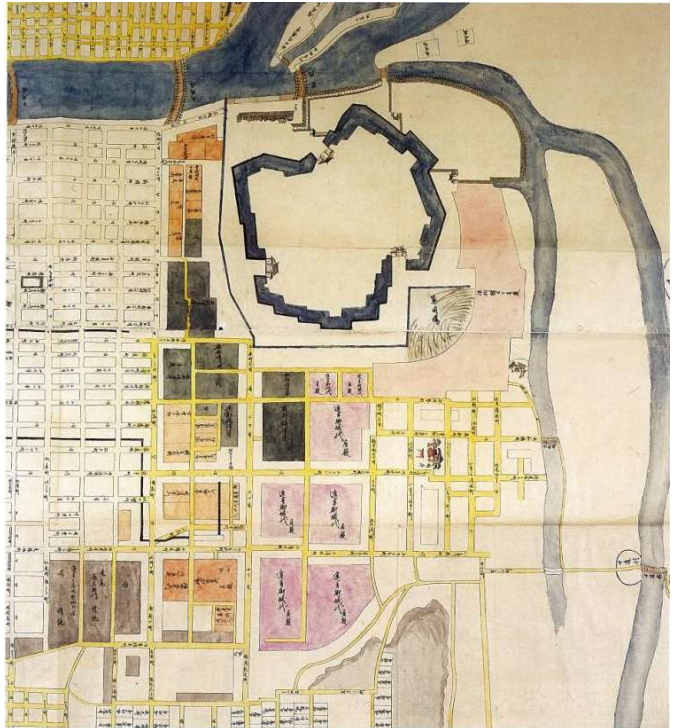


図 12 大坂三郷町絵図写（大阪城天守閣蔵）



図 13 近代の大坂城跡（『まちに住まう』特別付録地図）
『近代都市の構築—大大阪の生活と文化—より』

展への契機となった。また沿岸部には民間の紡績工場が続々と建設され、明治20年代(1888～)には東洋のマンチェスターと称された。

大正14年(1925)に大阪市は周辺の町村と合併して市域を拡大し、当時の人口・面積において日本で最大となり、「大大阪」と呼ばれた。しかし昭和6年(1931)には日中戦争に突入し、昭和20年(1945)の第二次世界大戦末期には大規模な空襲を受け、大阪の1/3が壊滅状態とな

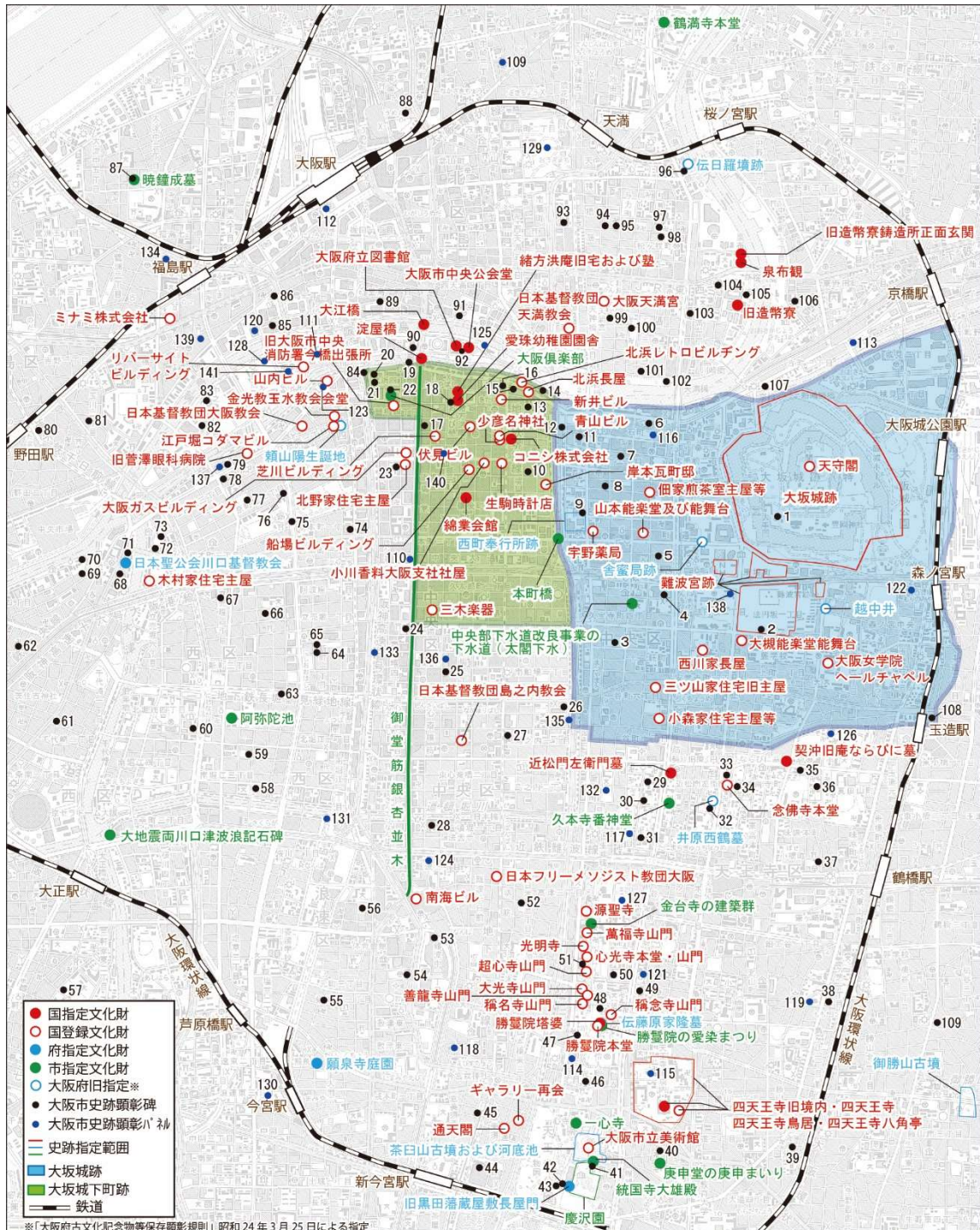


図14 大坂城跡周辺の指定等文化財及び大阪市史跡顕彰碑・顕彰パネル分布図
(平成25年(2013)3月時点)

った。戦後の大阪は、焼け跡から復興を遂げ、昭和45年（1970）には世界77か国が参加する万国博覧会が開催されるなど、現在も新しい街への発展を続けている。

大阪城が位置する上町台地は、古くから交通の要衝として栄え、現在に至るまで一貫して大阪の中心として発展してきた。そのことを示すように大阪城の周辺には古代や中世の文化財をはじめ、さらに天満、船場、中之島方面まで範囲を広げれば近世の名所・旧跡や明治以降の近代化遺産なども多数残存している。これらは大阪市顕彰史跡や府市の指定文化財、国の登録有形文化財などとして認定・顕彰されており、大阪の文化的な奥深さを示している（前頁図参照）。

表5 大坂城跡周辺の大阪市史跡顕彰碑及び顕彰パネルリスト（図14に対応）

1	石山本願寺推定地	49	上島鬼貫墓所	97	緒方洪庵墓所
2	難波宮跡	50	竹田出雲墓所	98	池上雪枝感化院跡
3	朝日神明社跡	51	鯛屋貞柳墓所	99	西山宗因向栄庵跡
4	南組惣会所跡	52	天王寺村鑄銭所跡	100	天満組惣会所跡
5	月山貞一旧居跡	53	難波御蔵・難波新川跡	101	天満青物市場跡
6	八軒家船つき場跡	54	鵜川割船発掘の地	102	将基島粗朶水制跡
7	釣鐘屋敷跡	55	折口信夫生誕地	103	川崎東照宮跡
8	大阪活版所跡	56	鉄眼禅師茶毘処地	104	洗心洞跡
9	西町奉行所跡	57	近代紡績工業発祥の地	105	造幣局旧正門
10	泊園書院跡	58	勸進相撲興行の地	106	貴志康一生誕地
11	大阪銀座跡	59	藤井藍田玉生堂跡	107	京橋川魚市場跡
12	里程元標跡	60	木村兼葭堂邸跡	108	二軒茶屋跡
13	天五に平五、十兵衛横町	61	大阪市電創業の地	109	本庄産院跡
14	大阪会議開催の地	62	龍溪禅師墓所	110	立川文庫ゆかりの地
15	大阪金相場会所跡	63	間長涯天文観測の地	111	グタイピナコテカ跡
16	大阪俵物会所跡	64	初世中村雁治朗生誕の地	112	梅田停車場跡
17	大阪商法会議所跡	65	新町九軒桜堤の跡	113	浪速鉄道片町駅跡
18	銅座の跡	66	大阪商業講習所跡	114	東儀一族墓所
19	淀屋の屋敷跡	67	薩摩堀川跡	115	安政地震津波碑
20	松瀬青々生誕地	68	川口居留地跡	116	三橋楼跡
21	手形交換所発祥の地	69	富島天守堂跡	117	植木屋吉助店跡
22	帝国座跡	70	大阪開港の地	118	徳風学校跡
23	御霊文楽座跡	71	大阪船手会所跡	119	大阪能楽殿跡
24	稻荷社文楽座跡	72	大阪市役所江之子島庁舎跡	120	雙松岡塾跡
25	橋本宗吉絲漢堂跡	73	雑喉場魚市場跡	121	赤穂義士墓所
26	住友銅吹所跡	74	信濃橋洋画研究所跡	122	森の宮貝塚
27	心学明誠舎跡	75	靱海産物市場跡	123	梅花社跡
28	竹本座跡	76	関西法律学校発祥の地	124	楽天地跡
29	田中金峰墓所	77	中天游邸跡	125	自由亭跡
30	ボードインゆかりの地	78	宮武外骨ゆかりの地	126	真田丸出城跡
31	豊竹若太夫墓所	79	薩摩藩蔵屋敷跡	127	浪花富士山跡
32	井原西鶴・中井一族墓所	80	野田城跡伝承地	128	府立大阪医学校跡
33	浪華仮病院跡	81	野田の藤跡	129	天満堀川妙見堤跡
34	片山北海・入江昌喜墓所	82	近代製紙業発祥の地	130	有隣学校跡
35	岡田米山人・岡田半江墓所	83	蔵屋敷跡	131	巡航船ゆかりの地
36	志太野坡墓所	84	西横堀川跡	132	南瓦屋町の瓦工房
37	桃山跡	85	五代友厚精藍所・西朝陽館跡	133	順慶町の夕市
38	堂ヶ芝廃寺	86	大阪市役所堂島庁舎跡	134	愛隣夜学校跡
39	摂津国分寺跡	87	暁鐘成墓所	135	繰綿延売買会所跡
40	竹本義太夫墓所	88	凌雲閣跡	136	大阪書籍館跡
41	広瀬旭荘墓所	89	国産ビール発祥の地	137	上等裁判所跡
42	慶沢園	90	駅通司大阪郵便役所跡	138	大阪医学校跡・大阪師範学校跡
43	旧黒田藩蔵屋敷長屋門	91	佐賀藩蔵屋敷跡	139	逆櫓の松跡
44	大阪国技館跡	92	大阪通商会社・為替会社跡	140	北組惣会所跡
45	小西米山十萬堂跡	93	中斎大塩平八郎墓所	141	北村兼子ゆかりの地
46	増井の清水	94	山片蟠桃墓所		
47	植村文楽軒墓所	95	篠崎小竹墓所		
48	麻田剛立墓所	96	源八渡し跡		